

資格課程委員会・司書教諭課程

1 大学の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標

(理念・目的等)

A群・大学・学部等の理念・目的・教育目標とそれに伴う人材養成等の目的の適切性

(司書教諭課程) 司書教諭課程は、学校図書館法で定められた、司書教諭を養成する課程である。すなわち、司書教諭課程の目的は、学校図書館の専門的職務を掌る司書教諭として必要な知識・技能を修得する人材の養成である。司書教諭課程は、省令に定められた科目を小・中・高等学校等の教諭の免許状を有する者あるいは教諭の免許状を取得しようとする者が受講する課程である。各専門教科で学んだ専門知識を生かし、学校図書館で司書教諭として、図書館資料の収集、整理、および生徒または教員の利用に供することに従事するための知識とスキルを持った教師を育成することが目標である。

A群・大学・学部等の理念・目的・教育目標等の周知の方法とその有効性

★現状(評価)

・現状

(司書教諭課程) 司書・司書教諭課程室を設け、図書館情報学関連の資料を集め、受講生に学びの場を提供している。

・長所

(司書教諭課程) 現役の教員、ならびに教員経験を有する者が専任あるいは兼任講師として授業を担当し、学校図書館の重要性及び教育面での図書館の活用を説いていることは、受講生に取り、有用である。

・問題点

(司書教諭課程) 教職課程受講生の多くに受講を進めたいが、現在の陣容ではゆきとどかず、増員が望まれる。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(司書教諭課程) メディア授業の実施に伴い、増員が実現されれば、司書教諭課程においても教育上の余裕が生じる。

(理念・目的等の検証)

C群・大学・学部等の理念・目的・教育目標を検証する仕組みの導入状況

C群・大学・学部等の理念・目的・教育目標の、社会との関わりの中での見直しの状況

★現状(評価)

・現状

(司書教諭課程) 学生による授業評価の実施については、授業内容へのコメントおよびレポート等で学生の意見を入手し、授業評価も実施しており、授業方法の改善にとりくんでいる。カリキュラムについては、基本的に資格取得のための法定課目の組み立てであるため、評価になじみにくい。本学司書教諭課程としての独自なとくみは、特別講義の制度により、学校図書館ならびに専門図書館あるいは海外における難民キャンプでの図書館づくりに携わっている団体など、学校図書館関係の専門家を招き、受講生の知識と視野を広めている。

・長所

・問題点

★改善方策

・問題点に対する改善方針

1 大学の理念・目的および学部等の使命・目的・教育目標に基づいた特色ある取組み

(大学・学部における特色ある取組)

★現状(評価)

・現状

(司書教諭課程)2006年度から神田一橋中学校において、学校図書館の管理運営に携わるボランティア活動を実施している。

・長所

(司書教諭課程)チーム・ティーチングを念頭に数名のグループによる課題研究、討論、学習指導案の作成にとりくんでいる。

・問題点

(司書教諭課程)教職課程受講生の多くに受講を進めたいが、現在の陣容ではゆきとどかず、増員が望まれる。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

メディア授業の実施に伴い、増員を要求しているが、実現すれば、司書教諭課程にも多少のゆとりが生ずる。

2 教育研究組織

★目的・目標

(司書教諭課程)司書教諭課程は、学校図書館法で定められた、司書教諭を養成する課程である。すなわち、司書教諭課程の目的は、学校図書館の専門的職務を掌る司書教諭として必要な知識・技能を修得する人材の養成である。司書教諭課程は、省令に定められた科目を小・中・高等学校等の教諭の免許状を有する者あるいは教諭の免許状を取得しようとする者が受講する課程である。各専門教科で学んだ専門知識を生かし、学校図書館で司書教諭として、図書館資料の収集、整理、および生徒または教員の利用に供することに従事するための知識とスキルを持った教師を育成することが目標である。

(教育研究組織)

A群・当該大学の学部・学科・大学院研究科・研究所などの組織の教育研究組織としての適切性、妥当性

★現状(評価)

・現状

(司書教諭課程)専任教員2名、兼任講師1名、兼任講師2名である。生田地区での開講科目を増加したため、専任教員の負担が増加している。

・長所

・問題点

2008年度にメディア授業の開講を進めるなら専任教員の1名増が必要である。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

3 学士課程の教育内容・方法等

(1)教育課程等

(学部・学科等の教育課程)
★目的・目標
(司書教諭課程)司書教諭課程は、学校図書館法で定められた、司書教諭を養成する課程である。すなわち、司書教諭課程の目的は、学校図書館の専門的職務を掌る司書教諭として必要な知識・技能を修得する人材の養成である。司書教諭課程は、省令に定められた科目を小・中・高等学校等の教諭の免許状を有する者あるいは教諭の免許状を取得しようとする者が受講する課程である。各専門教科で学んだ専門知識を生かし、学校図書館で司書教諭として、図書館資料の収集、整理、および生徒または教員の利用に供することに従事するための知識とスキルを持った教師を育成することが目標である。
A群・学部・学科等の教育課程と各学部・学科等の理念・目的並びに学校教育法第 52 条、大学設置基準第 19 条との関連 A群・学部・学科等の理念・目的や教育目標との対応関係における、学士課程としてのカリキュラムの体系性 A群・教育課程における基礎教育、倫理性を培う教育の位置づけ B群・「専攻に係る専門の学芸」を教授するための専門教育的授業科目とその学部・学科等の理念・目的、学問の体系性並びに学校教育法第 52 条との適合性 B群・一般教養的授業科目の編成における「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養」するための配慮の適切性 B群・外国語科目の編成における学部・学科等の理念・目的の実現への配慮と「国際化等の進展に適切に対応するため、外国語能力の育成」のための措置の適切性 B群・教育課程の開設授業科目、卒業所要総単位に占める専門教育的授業科目・一般教養的授業科目・外国語科目等の量的配分とその適切性、妥当性 B群・基礎教育と教養教育の実施・運営のための責任体制の確立とその実践状況 C群・グローバル化時代に対応させた教育、倫理性を培う教育、コミュニケーション能力等のスキルを涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教養教育上の位置づけ C群・起業家的能力を涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教育課程上の位置づけ C群・学生の心身の健康の保持・増進のための教育的配慮の状況
★現状(評価)
・現状 (司書教諭課程) 学校図書館が全ての児童・生徒を対象に平等なサービスが提供されるということをコンセプトに、「共生」ということを考える機会としている。
・長所 図書館情報学という分野を超えて、「共に生きる」という命題を扱っている。
・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針
(インターンシップ、ボランティア)
★目的・目標
(司書教諭課程)図書館におけるボランティア活動を通じて、実務上の模擬体験をし、司書教諭の具体的な仕事が想像できること、就職した際に直面する諸問題に対処できる力をあらかじめ備えることを目的としている。
C群・インターン・シップを導入している学部・学科等における、そうしたシステムの実施の適切性 C群・ボランティア活動を単位認定している学部・学科等における、そうしたシステムの実施の適切性

★現状(評価)
<ul style="list-style-type: none"> ・現状 2006年度から神田一橋中学校において開始している。 ・長所 机上の知識のみではなく、現場での仕事を体験することの意義が大きい。 ・問題点 現時点では、ボランティア活動であるが、学校図書館実習として単位化が望まれる。
★改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ・問題点に対する改善方針 2006－2007年度の実績をもとに、単位化を進める。
(履修科目の区分)
★目的・目標
B群・カリキュラム編成における、必修・選択の量的配分の適切性, 妥当性
★現状(評価)
<ul style="list-style-type: none"> ・現状 (司書教諭課程) 司書教諭課程は、学校図書館法で定められた、司書教諭を養成する課程である。すなわち、司書教諭課程の目的は、学校図書館の専門的職務を掌る司書教諭として必要な知識・技能を修得する人材の養成である。司書教諭課程は、省令に定められた科目を小・中・高等学校等の教諭の免許状を有する者あるいは教諭の免許状を取得しようとする者が受講する課程である。 ・長所 ・問題点
★改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ・問題点に対する改善方針
(授業形態と単位の関係)
★目的・目標
A群・各授業科目の特徴・内容や履修形態との関係における、その各々の授業科目の単位計算方法の妥当性
★現状(評価)
<ul style="list-style-type: none"> ・現状 ・長所 グループによる討議や指導案作成など、チームティーチングを想定し、協力して教育に従事する教員の育成を目指している。 ・問題点 きめ細かな指導を実施するには、大人数のクラスでは困難である。少人数のクラスにするには教員の増員が望まれる。

★改善方策
・問題点に対する改善方針 メディア授業の開始に伴う増員を求めている。
(開設授業科目における専・兼比率等)
★目的・目標
B群・全授業科目中, 専任教員が担当する授業科目とその割合 B群・兼任教員等の教育課程への関与の状況
★現状(評価)
・現状 (司書教諭課程) 必修5科目のうち2科目を専任教員が担当。ほかに兼任講師1名と兼任講師が2名おり, 充足している。
・長所 専任教員および兼任講師に教師経験者および現職教員がおり, 学校ならびに学校図書館の実情や問題点を教えることができる。学校図書館および学校図書館の資料を有効に用いた教育方法を展開できること。
・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針
(社会人学生, 外国人留学生等への教育上の配慮)
★目的・目標
(司書教諭課程) 現職教員の資格取得のための履修に際して, 学校図書館の教育上の重要性と活用の必要性を知らしめることを目的としている。
C群・社会人学生, 外国人留学生, 帰国生徒に対する教育課程編成上, 教育指導上の配慮
★現状(評価)
・現状 (司書教諭課程) 現職教員が司書教諭の資格を得るために科目等履修生として登録し, 受講する状況が漸次増えてきている。
・長所 現職者の教育は, 学部学生への刺激となり, 双方が啓発し, 相乗効果を生み出している。
・問題点 未だ現場経験を持たない学生と現職者への同時教育は困難な面も持つ。
★改善方策
・問題点に対する改善方針 現場で直面する問題などを, 学生に投げかけ, 討論を呼び起こすことにより, 双方にとって, 実のある学習にしてい
く。
(正課外教育)

★目的・目標
(司書教諭課程) 学校図書館におけるボランティア活動を通じて、現場の問題、職業上の課題を体得させることを目標としている。
C群・正課外教育の充実度
★現状(評価)
<p>・現状 (司書教諭課程) 千代田区立一橋中学校図書館におけるボランティア活動を2006年度から実施している。活動の内容は学校図書館の運営と活動の支援であり、図書の整理、貸し出し、調べ学習への支援、レファレンスサービスなどである。</p> <p>・長所 学校図書館の現場でのボランティア活動は、司書教諭志望者にとって実のある体験となる。</p> <p>・問題点 ボランティア活動を単位化すること。</p>
★改善方策
<p>・問題点に対する改善方針 1年間の試みの後、できれば、学校図書館実習として、単位化することを考えている。</p>

(2) 教育方法等

(教育効果の測定)
★目的・目標
<p>B群・教育上の効果を測定するための方法の適切性 B群・教育効果や目標達成度及びそれらの測定方法に対する教員間の合意の確立状況 B群・教育効果を測定するシステム全体の機能的有効性を検証する仕組みの導入状況 B群・卒業生の進路状況 C群・教育効果の測定方法を開発する仕組みの導入状況 C群・教育効果の測定方法の有効性を検証する仕組みの導入状況 C群・教育効果の測定結果を基礎に、教育改善を行う仕組みの導入状況 C群・国際的、国内的に注目され評価されるような人材の輩出状況</p>
★現状(評価)
<p>・現状 (司書教諭課程) 学生による授業評価の実施については、授業内容へのコメントおよびレポート等で学生の意見を入手し、授業評価も実施しており、授業方法の改善にとりくんでいる。カリキュラムについては、基本的に資格取得のための法定科目の組み立てであるため、評価になじみにくい。本学司書教諭課程としての独自なとりくみは、特別講義の制度により、学校図書館関係の専門家を招き、通常の授業で扱うことの少ない内容を補っている。卒業生の進路については、専門の教科における採用が圧倒的に多いが、私立の中・高等学校からの採用の機会もあり、今後は教員採用の際の有力な資格ともなりうるので、十分な指導を進めたい。</p> <p>・長所 教員として採用された際、学校図書館の活用を専門の教科指導において、実施することができるのは、強みである。</p> <p>・問題点</p>

★改善方策
・問題点に対する改善方針
(厳格な成績評価の仕組み)
★目的・目標
A群・履修科目登録の上限設定とその運用の適切性 A群・成績評価法, 成績評価基準の適切性 B群・厳格な成績評価を行う仕組みの導入状況 B群・各年次及び卒業時の学生の質を検証・確保するための方途の適切性 C群・学生の学習意欲を刺激する仕組みの導入状況
★現状(評価)
・現状 (司書教諭課程)過去50点が大学の設けた合格ラインであったものが60点となり, 厳正な評価がより実施しやすくなった。 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針
(履修指導)
★目的・目標
A群・学生に対する履修指導の適切性 B群・オフィスアワーの制度化の状況 B群・留年者に対する教育上の配慮措置の適切性 C群・学習支援(アカデミック・ガイダンス)を恒常的に行うアドバイザー制度の導入状況 C群・科目等履修生, 聴講生等に対する教育指導上の配慮の適切性
★現状(評価)
・現状 (司書教諭課程)駿河台校舎では, 司書教諭課程室配属の嘱託職員が週5日いるほか TA も在室し, 履修相談や指導に当たっている。また, 専任教員が在室して, オフィスアワーとしている。和泉校舎, 生田校舎では学習支援室, 資格課程分室に資格課程全体の相談に対応する組み立てがある。 ・長所 嘱託職員および TA は, 有資格の卒業生を配属しているため, 履修相談, 進路相談などに力を発揮している。 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針

(教育改善への組織的な取り組み)
★目的・目標
<p>A群・学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための措置とその有効性 A群・シラバスの作成と活用状況 A群・学生による授業評価の活用状況 B群・FD活動に対する組織的取り組み状況の適切性 C群・FDの継続的实施を図る方途の適切性 C群・学生満足度調査の導入状況 C群・卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況 C群・雇用主による卒業生の実績を評価させる仕組みの導入状況 C群・教育評価の成果を教育改善に直結させるシステムの確立状況とその運用の適切性</p>
★現状(評価)
<p>・現状 (司書教諭課程)学生による授業評価の実施については、授業内容へのコメントおよびレポート等で学生の意見を入手し、授業評価も実施しており、授業方法の改善にとりくんでいる。カリキュラムについては、基本的に資格取得のための法定課目の組み立てであるため、評価になじみにくい。本学司書教諭課程としての独自なとくみは、特別講義の制度により、学校図書館関係の専門家を招き、通常の授業で扱うことの少ない内容を補っている。</p> <p>・長所</p> <p>・問題点</p>
★改善方策
<p>・問題点に対する改善方針</p>
(授業形態と授業方法の関係)
★目的・目標
<p>B群・授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性 B群・マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性 B群・「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性</p>
★現状(評価)
<p>・現状 (司書教諭課程)司書教諭の科目では、学校図書館の現場を知らしめる必要から、多様な教材メディアを使った代理体験を採り入れた授業運営を行ってきた。今後ともこの方向は強化されることになろう。</p> <p>・長所</p> <p>・問題点 (司書教諭課程)現状の講義や実習での映像利用は著作権上問題はないようだが、メディア授業の場合、現在利用している映像について著作権問題をクリアーする必要がある。</p>
★改善方策
<p>・問題点に対する改善方針</p>

(4) 通信制大学・学部等

★目的・目標
A群・通信制の大学・学部における, 実施している教育の内容, 方法, 単位認定, 学位授与の適切性とそのための条件整備の適切性
★現状(評価)
・現状 (司書教諭課程)2007年度よりのメディア授業の開始を考え, 2006年度中に2科目についてそのコンテンツの作成を行った。ただし, メディア授業を本格化させるには, 専任教員(司書課程と兼任)の1名増が必要である。
・長所
・問題点 (司書教諭課程)2008年度よりのメディア授業の全面的開始には, 専任教員(司書課程と兼任)の1名増が必要である。
★改善方策
・問題点に対する改善方針

4 学生の受け入れ

★目的・目標
(科目等履修生・聴講生等)
C群・科目等履修生, 聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性
★現状(評価)
・現状 (司書教諭課程)科目等履修生について, 本学卒業者以外も受け入れている。
・長所 現職者教育を進めていくうえで, 司書教諭課程にとって, 意義がある。
・問題点 (司書教諭課程)メディア授業の開始となれば, 多くの科目等履修生はそちらに応募するのではないかと思われる。
★改善方策
・問題点に対する改善方針

5 教員組織

★目的・目標

(教員組織)

A群・学部・学科等の理念・目的並びに教育課程の種類・性格、学生数との関係における当該学部の教員組織の適切性

A群・主要な授業科目への専任教員の配置状況

A群・教員組織における専任、兼任の比率の適切性

A群・教員組織の年齢構成の適切性

B群・教育課程編成の目的を具体的に実現するための教員間における連絡調整の状況とその妥当性

C群・教員組織における社会人の受け入れ状況

C群・教員組織における外国人研究者の受け入れ状況

C群・教員組織における女性教員の占める割合

★現状(評価)

・現状

(司書教諭課程)専任教員2名, 兼任講師1名のほか兼任講師2名である。メディア授業の開講を視野に入れるならば専任増が必要である。

・長所

(司書教諭課程)専任ならびに兼任講師に教員経験者がおり, 現場の問題もあわせて, 教えることができる。特別講義における学校図書館関係者による講義が受講生に好評であること。

・問題点

(司書教諭課程) 2007年度にメディア授業の開講を進めるなら専任教員の1名増が必要である。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

(教育研究支援職員)

A群・実験・実習を伴う教育, 外国語教育, 情報処理関連教育等を実施するための人的補助体制の整備状況と人員配置の適切性

B群・教員と教育研究支援職員との間の連携・協力関係の適切性

C群・ティーチング・アシスタントの制度化の状況とその活用の適切性

★現状(評価)

・現状

(司書教諭課程)駿河台校舎では, 司書課程室配属の嘱託職員およびTAが週5日おり, 履修相談や指導に当たっているほか, オフィスアワーとしている。和泉校舎, 生田校舎では学習支援室, 資格課程分室に資格課程全体の相談に対応する組み立てがある。

・長所

嘱託職員およびTAは, 従来有資格者の卒業生を配属しているため, 履修相談, 進路相談などに力を発揮している。

・問題点

(司書教諭課程)司書教諭課程室配置の嘱託は, その業務内容, 特に対学生の指導を含む対応の責任から言えば, 他の簡易な事務の短期嘱託と同じ待遇であることには問題がある。待遇の改善を求めたい。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

6 研究活動と研究環境

★目的・目標

(1) 研究活動

(研究活動)

- A群・論文等研究成果の発表状況
- C群・国内外の学会での活動状況
- C群・当該学部として特筆すべき研究分野での研究活動状況
- C群・研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況

★現状(評価)

・現状

(司書教諭課程)図書館情報学の学会は、研究者も少なく、専門学会誌も少ないのが現状であるが、中心的な学会である日本図書館情報学会の活動に専任教員が各種委員会の委員として参画している。また、それぞれの教員は、情報メディア学会、日本図書館協会、日本図書館研究会、日本図書館文化史研究会等の役員を歴任し、関連学会における活動も続けている。

科研費等の学外の研究助成についても学外研究者と共同で応募し、研究成果も出している。

2006年度に採択された『資質の高い教員養成 GP』のシンポジウム(2月下旬開催)において、「学校図書館を活用した授業づくり」をテーマとする分科会を企画・実施した。学校関係者をはじめ、司書教諭受講生ほか、多くの参加者を得て、意義のある発表会となった。

『資質の高い教員養成 GP』の「学校行脚プロジェクト」として、3月下旬に石川県白山市の公立小・中学校における学校図書館を見学し、学校図書館を活用した特色ある教育に関する調査研究を進めた。

・長所

・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方針

(教育研究組織単位間の研究上の連携)

- A群・附置研究所とこれを設置する大学・大学院との関係
- C群・大学共同利用機関、学内共同利用施設等とこれが置かれる大学・大学院との関係

★現状(評価)

・現状

(司書教諭課程)大学図書館とは従来から協力関係にある。これを図書館学研究にまで拡大する方向を模索したい。

・長所

・問題点

★改善方策

- ・問題点に対する改善方針

8 図書館および図書・電子媒体等

★目的・目標
(図書, 図書館の整備)
A群・図書, 学術雑誌, 視聴覚資料, その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性 A群・図書館施設の規模, 機器・備品の整備状況とその適切性, 有効性 A群・学生閲覧室の座席数, 開館時間, 図書館ネットワークの整備等, 図書館利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性, 適切性 A群・図書館の地域への開放の状況
★現状(評価)
・現状 (司書教諭課程)研究図書や一般図書に関しては, 図書館情報学を重視している図書館として, 収集に力を入れているため, それほど問題はない。が, 今後は学校図書館関連の図書がさらに必要である。 ・長所 ・問題点
★改善方策
・問題点に対する改善方針

9 社会貢献

(社会への貢献)
★目的・目標
B群・社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度 B群・公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況 B群・教育研究上の成果の市民への還元状況 C群・ボランティア等を教育システムに取り入れ地域社会への貢献を行っている大学・学部等における, そうした取り組みの有効性 C群・地方自治体等の政策形成への寄与の状況 C群・大学附属病院の地域医療機関としての貢献度
★現状(評価)
・現状 千代田区との連携の一環として, 神田一橋中学校図書館において, ボランティア活動を2006年度から開始している。活動内容は, 学校図書館の運営およびサービスの提供である。具体的には学校図書館の資料の整理, 貸し出し, 調べ学習への支援ならびにレファレンスサービスの提供である。 ・長所 学校図書館現場での体験は貴重である。 ・問題点 ボランティア活動から正規の科目として単位化が望ましい。

★改善方策

・問題点に対する改善方針

1年間の成果を踏まえて、図書館実習として、単位を与えることができるように、とりくみたい。